

令和6年度 第1回東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略推進協議会

議事録

日時 令和6年5月28日(火)
午後3時から午後5時まで
場所 豊橋市役所西館8階 第3委員会室

■議 事

1. 第2期東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について
2. 第3期東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略について
 - ・東三河人口ビジョンの骨子(案)
 - ・東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略の骨子(案)
 - ・東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略策定までのスケジュール(案)

■発言要旨

発言者	要旨
1. 第2期東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略の検証について	
神谷委員	<ul style="list-style-type: none">・第2期戦略において、当初はKPIの設定に苦慮する部分もあったが、総括としては、一定の成果は出ているのではないかと感じる。・介護保険事業は、第3期地方創生の取組から外すことに関しては理解できるが、引き続き、介護に関する事業報告を受ける機会は設けていただきたい。・広域連合が実施する事業と、東三河総局や構成市町村が実施する事業とで、二重行政にならないようにしていただきたい。
松井会長	<ul style="list-style-type: none">・介護保険事業については、第3期戦略には反映されないが、本日は第2期までの総括を含めて話し合うため、発言していただければと思う。
神谷委員	<ul style="list-style-type: none">・介護保険事業事務においては、各市町村との情報共有機能を強化する方策を検討してほしい。・家族リフレッシュ事業は、検討の余地があると考えます。
渡会委員	<ul style="list-style-type: none">・介護保険事業においては、地域格差もあると感じるため、各自治体における介護者等の実状をしっかりと把握していただきたい。
田中委員	<ul style="list-style-type: none">・東三河DMOの具体化におけるKPI達成状況については、記載説明に矛盾点が生じているため、矛盾しない記載としてほしい。
事務局	<ul style="list-style-type: none">・整合性が図られるよう修正する。
松井会長	<ul style="list-style-type: none">・今回の資料は、今後どのように活用されるのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none">・広域連合議会におけるみらい広域委員会に示し、意見を聴取し修正を重ね、最終的な原案はパブリックコメントを実施していく。

岸委員	・一市民として、担当者が変更になると、相談事が一からになってしまうため、とても困る。
水谷委員	・資料は公表した方がよいと考える。大きな枠組みの中で、東三河全体の行政が推進されているということや、広域連合がこのような議論を交わしているということ、SNSなどを活用し、より多くの方に知ってもらうことが大切だと考える。
事務局	・最終的な資料については、何らかの形で公表していきたいと考える。
渡会委員	・KPIの達成状況は、事業の継続に係るのか。
事務局	・KPIは事業の進捗度合を確認する要素であり、事業継続の参考となる数字である。ただし、第2期戦略のKPIは、目標と実状とで乖離（かいり）があるなど反省点の多いものであった。次期戦略では整理していきたい。
間瀬委員	・各市町村との連携の中で、様々な取組が実施できるとよい。
松井会長	・KPIに関しては、取組事業と目標が関連性のないものになっていた。1・2期通して、KPIの設定が一番の問題であると考えます。 ・広域連合でしかできない方策、各市町村が実施する戦略とのシナジー効果を頭の中で描きながらご意見賜りたい。広域連合としての存在意義が、しっかりと戦略にも踏まえられと思う。
2. 第3期東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略について	
東三河人口ビジョンの骨子（案）	
東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略の骨子（案）	
東三河まち・ひと・しごと創生総合戦略策定までのスケジュール（案）	
田中委員	・インスタグラムを活用した魅力発信事業について、広域連合として発信すべき魅力は、観光のみならず、「まち」「ひと」「しごと」など多分野にわたるものだと考える。観光を含めてもよいが幅広く、重複しないよう役割分担していくべきである。
松井会長	・この地域は、「住んでみると住みやすい」とよく言われるが、住む前の方にどのように発信するかも、いつもテーマに上がる。第3期に向けて検討していただきたい。
間瀬委員	・推進協議会の役割は、各事業の報告まで受けるのか、提案のみを行えばよいのか教えていただきたい。
松井会長	・委員の意見については、対応をしっかりとフィードバックするようにしていただきたい。
渡会委員	・子どもたちの将来地域に戻ってきたい、住みたいという思いは残していかなければならない。子どもたちに向けて、将来的に地元での就職活動や定住にもつながるような施策に取り組んでほしい。
松井会長	・子どもへの施策としては、ほの国こどもパスポート事業を実施してきた。公共施設の利用促進以外の検討も、これまで議論されてきたがアイデアがなかった。第3期では、若者・こどもに向けた取組がさらに展開できるとよいと思う。

神谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・予算など費用対効果のわかる資料を見せていただきたい。 ・山村都市交流拠点施設整備事業に関しては、雇用促進が目的なのか、住民同士の交流が目的なのか、目的を明確にし、施設計画をしっかりと立てて整備していただきたい。 ・愛知県や各市町村と二重行政になっている取組が多いと感じる。線引きをしっかりとしていただきたい。 ・デジタル消費生活相談事業とは何か。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル消費生活相談事業については、現在、各市町村全てに消費生活相談員を設置することが、人員確保などの面から非常に難しい状況にあり、現状はオンライン会議システムなどを活用し、相談に乗っている。この取り組みをさらに強化していくというものである。
水谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人口流出の問題は非常に難しい。全国的に見れば、愛知県も人口は減少しており、地域間での人口の取り合いとなってしまうため、あまり深く論ずる意味はないと考える。 ・以前、東三河で地域住民との交流事業を実施した際、一部の市町村しか協力の手が挙げられなかった。実施後に、広域連合に協力を依頼すればよかったと気づいた。このような広域にわたる事業を検討する者の受け皿というバックアップ機能があるとよい。
松井会長	<ul style="list-style-type: none"> ・そういった受け皿、橋渡しの役割は、広域連合の存在意義だと思う。
岸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・人口流出の問題には、仕事に関わってくると思うが、場所を選ばない新しい働き方を示していくことができると、若者にもこの地域で働くイメージがわきやすいのではないか。 ・広域連合のインスタグラムはお祭りや行事などがよくわかり、写真も非常に素敵だが、フォロワー数ではなく、内容に対する評価を検証することで、今後の運用やKPIの設定の仕方も変わってくるのではないか。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> ・インスタグラムについては、広告を掲載すればフォロワー数は数千人増えるかもしれないが、そのフォロワーの中身を見て、目標、ターゲットとする層が獲得できているかを見た方がよい。
松井会長	<ul style="list-style-type: none"> ・KPIはしっかりと考えなければならない。
神谷委員	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県の漁村で、若者が生き生きと地域住民と交流しながら働く施設がある。山村都市交流拠点施設整備事業で、こういった事例を参考に施設検討をしていただきたい。
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの将来については、子どもだけでなく保護者の選択もあるが、現状、保護者についても地元の生業に関する知識が非常に不足している。東京などの都会の情報はマスメディア等でも発信され、目に触れやすいが、地元の情報があまりにも不足しているため、東三河の企業も含めた地域の魅力を効果的に発信していくことが課題として認識している。 ・人口については、東三河だけでなく、隣接する自治体との関連性にも注視していかなければならないと考える。
松井会長	<ul style="list-style-type: none"> ・第1・2期では、20歳代の女性の転出割合が高い状況にあった。これか

	<p>ら出産を迎えていくであろう層が減少していれば、子どもの人口も減少していく。人口確保の問題に対しては、暮らしやすいとか安心といった題目があるが、なぜ女性層が減少していくのかなど、原因の部分から突き詰めて見ていかなければならないと考える。</p>
水谷委員	<ul style="list-style-type: none"> • 大学は、全国から学生が集まってくる。このような外からきた若者に対しても生業づくりと絡めて、地元就職してもらおう取組は戦略として正しい選択だと考える。
神谷委員	<ul style="list-style-type: none"> • 山村都市交流拠点施設整備事業について、ワークショップとして田口高校の生徒の意見を聴くことは非常に良いと思うが、山間地域だけでなく、豊川下流域の若者の意見も聴いてみたらどうか。
田中委員	<ul style="list-style-type: none"> • 山村都市交流拠点施設は、上流地域だけではなく、上下流域における高校生たちが意見を交わすことは非常に素晴らしいことだと考える。
神谷委員	<ul style="list-style-type: none"> • コロナの影響でオンライン会議も増えた。オンラインでの交流も取り入れたらどうか。
岸委員	<ul style="list-style-type: none"> • オンラインとリアルの交流を組み合わせることが重要だと感じている。ライダーと連携したイベントを実施した際には、オンラインでの交流から、対面での交流にもつながり、ファンになっていくという流れができた。
神谷委員	<ul style="list-style-type: none"> • 広報ひがしみかわは、情報が上手にまとまっており、発信がうまくなっている。一部の地域では、電子回覧板も導入されているが、紙媒体も非常に重要であると考え。今後も紙媒体での配布を継続していくのか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> • 地域により配布方法は異なるが、基本的に全地域に向けて、引き続き配布していく。
水谷委員	<ul style="list-style-type: none"> • ICTを活用した魅力発信事業について、東三河には、古くから地域に根付いたお祭りや伝統文化がある。そのようなお祭りや伝統文化の魅力を、ICTと組み合わせ発信していくと良いのではないかと考える。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> • 愛知県や構成市町村、民間が実施する取組との線引きは、重要であるとともに、非常に難しい部分であると考え
松井会長	<ul style="list-style-type: none"> • 線引きというより、住み分けとシナジー効果が重要と考える。線が引けなくても、相乗効果が出るような方法もあるかと思う。
伊藤委員	<ul style="list-style-type: none"> • 政策を策定する段階から、関係機関には腹を割って情報交換をしていかなければならない。
松井会長	<ul style="list-style-type: none"> • 今後外国人が増加すると予想される。外国人人口の増加は、人口問題を考えるうえで無視できない部分だと考える。

以上。